

News Release



2026年1月29日
株式会社インテック

インテック、オンプレミス環境で生成AIを活用できる ローカルLLMの導入支援を開始 ～企業の安全な生成AI活用に向けた初期導入をサポート～

TIS インテックグループの株式会社インテック（本社：富山県富山市、代表取締役社長：疋田秀三、以下：インテック）は、生成AIの導入や活用を検討しているものの、セキュリティや効果、コストが不透明で活用に踏み切れない製造業や金融業などの企業を対象に、オンプレミス環境で生成AIを活用できるローカルLLMの導入支援を2026年1月29日から開始することを発表します。

これにより、クラウドを介さずに稼働する大規模言語モデル(LLM)をオンプレミス環境に最短1ヶ月で構築し、機密情報を扱う業務においても生成AIの組織的な活用を可能にします。企業は外部と遮断された安全な自社ネットワーク環境内で生成AIの効果とリスクを見極め、本格導入に向けた意思決定を迅速に行うことができます。

<ローカルLLM導入支援 概要図>



■背景

近年、企業のDX推進において生成AIは不可欠なツールとして関心が高まり、その活用範囲が拡大しつつあります。しかし、多くの企業では、機密情報を取り扱う業務へのAI適用における安全性やコンプライアンスへの懸念、運用に必要なリソースや効果の不透明さから、導入に向けた社内合意や具体的なアクションに至らず、活用の初期段階で停滞してしまうケースが少なくありません。

一般的なクラウド型のLLMでは、自社でサーバを用意することなく、高度なAI機能を利用できる一方、入力した情報が外部サーバに送信されるため、機密情報や個人情報を扱う業務では慎重

な判断が求められます。また、サービス提供元がモデルの運用を管理しているため、自社業務に合わせた細かな調整が難しいうえに、利用量に応じた従量課金が発生するため、中長期の利用コストが読みづらいという課題もあります。

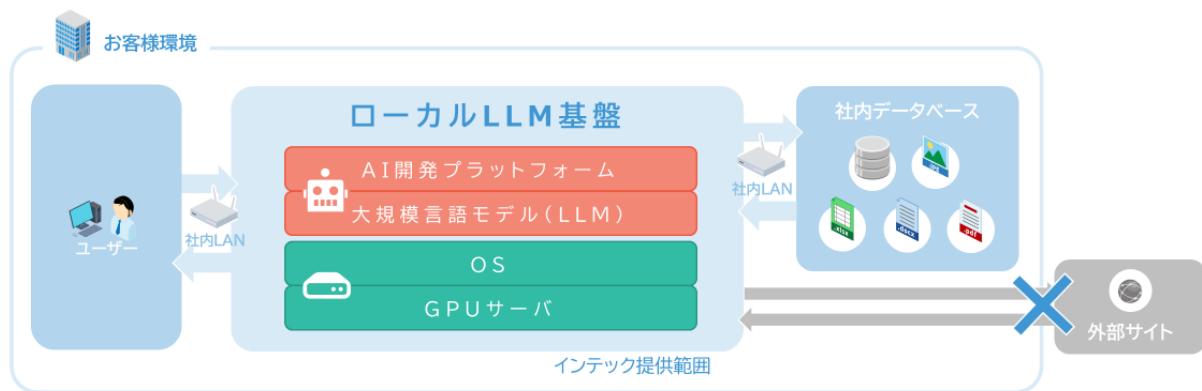
こうした背景から、データを自社環境内に保持したまま生成AIを活用できるローカルLLMへの期待が高まっていますが、GPUを搭載した専用機器の準備や、モデル選定、環境構築、運用設計には高度な専門性が求められ、自社のみで検討から実装まで進めることが難しいという新たな課題も顕在化しています。

そこでインテックは、生成AI活用に向けた初期段階の検証を安全かつ迅速に実施できる環境の必要性を認識しました。長年培ってきた豊富なインフラ構築実績や自社サービス運用のノウハウを結集し、安全なローカルLLM環境の導入と運用開始を短期間で実現することで、企業の生成AI活用を本格展開へつなげることを目的に、ローカルLLMの導入支援を開始しました。

■ローカルLLM導入支援の概要

生成AIの導入や活用を検討している企業に向けて、オンプレミスや閉域ネットワーク内で稼働可能なローカルLLM環境を提供します。外部のクラウドサービスを介さずに生成AIを活用できるため、機密情報の保護と高い安全性を確保できます。また、小規模から導入できるため、生成AI活用拡大へ向けての合意形成を進めることができます。

<ローカルLLM導入支援 インフラ構成イメージ>



<インテックによる導入支援の強み>

1. クラウドを介さないローカル環境構築

一般的なクラウドLLMを業務に適用する場合、クラウド上に社内情報を連携・保管する必要がある一方、ローカルLLMでは、自社環境内に保管された情報を参照し、外部と通信することなく回答を生成可能。これにより、企業は生成AI活用における機密情報や個人情報を保護することができ、情報漏洩リスクを極限まで低減。

さらに、幅広い領域における豊富なインフラ構築経験を持つインテックのSIスタッフが、企業の環境に最適な構築・運用をトータルサポートすることで、高いセキュリティレベルを維持した生成AI活用が実現。

2. 小規模PoCでスマールスタート可能

導入規模を限定した短期間で構築できるPoC環境を提供し、リスクを最小限に抑えたスマールスタートが可能。企業要件や現場環境に応じた柔軟な環境調整が行えるため、実業務を通じた活用効果の検証にフォーカスし、本格導入前の精度の高い意思決定を後押し。クラウドLLMのような利用頻度やデータ量増加に伴う従量課金が発生する利用モデルではないため、予算策

定や経営判断における不安を解消。

さらに、効果検証後は、GPU サーバの増設や処理能力の拡張、データセンターやネットワークを含めたインフラ全体の設計・構築へと段階的に拡張することが可能。インフラ基盤をワンストップで提供することで、企業の生成 AI 活用フェーズに合わせた持続的な価値創出に貢献。

3. カスタマイズ性の高い環境をワンストップで導入

LLM モデル本体の提供に加え、ローコードワークフローツールや RAG 機能※1 など、プログラム開発の知識がない担当者でも簡単に設定できる環境を導入。

クラウド LLM では困難なモデルや環境バージョンのユーザー制御が可能で、業務プロセスやデータ環境に合わせた柔軟なカスタマイズと多様なユースケースに対応。

※1 LLM によるテキスト生成に、社内情報などへの検索を組み合わせることで、解答の精度を向上させる技術。

＜価格＞

参考価格：500 万円～

初期導入費用は別途見積もり

詳細は以下 URL をご参照ください。

<https://www.intec.co.jp/service/detail/local-l1m/>

■今後について

インテックはローカル LLM の導入支援について、2026 年度までに売上高 3 億円、2028 年度までには累積売上高 12 億円の達成を目指します。

また、ローカル LLM の導入支援を通じて、企業における生成 AI 活用の初期導入をサポートするとともに、そこで得られた知見を生かし、将来的なソリューション体系の高度化、業界特化型の生成 AI 環境提供にも取り組んでいきます。

株式会社インテックについて (<https://www.intec.co.jp/>)

お客さまの経営戦略に沿った情報化戦略の立案からシステムの企画、開発、アウトソーシング、サービス提供、運用保守まで、IT 分野において幅広く事業を展開しています。インテックは、1964 年の創業以来培ってきた技術力をもとに、AI、RPA 等のデジタル技術の活用や、新たな市場の創造にも積極的に挑戦しています。常にオープンな姿勢で、人、企業、社会を技術でつなぎ、自らも変革しながら「豊かなデジタル社会の一翼を担う」企業としてお客さまに新しい価値を提供していきます。

TIS インテックグループについて

TIS インテックグループは、国内外グループ 2 万人を超える社員が『IT で、社会の願い叶えよう。』を合言葉に、「金融包摂」「都市への集中・地方の衰退」「低・脱炭素化」「健康問題」を中心としたさまざまな社会課題の解決に向けて IT サービスを提供しています。デジタル技術を駆使したムーバーとして新たな価値を創造し、人々の幸せと持続可能な豊かな社会の実現に貢献します。

※ 記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

※ 記載されている情報は、発表日現在のものです。最新の情報とは異なる場合がありますのでご了承ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

◆報道関係からのお問い合わせ先

株式会社インテック テクノロジー&マーケティング本部 広報部 小川、長谷、稻垣
E-Mail : press@intec.co.jp

◆本件に関するお問い合わせ先

株式会社インテック ICT プラットフォームサービス事業本部
E-Mail : net_info@intec.co.jp